

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	袋井市立周南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	6	6	2	19	33
生徒数	194	203	223	6	626	

研究の概要

1. 研究主題

学びの充実感を味わうことのできる授業を求めて

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

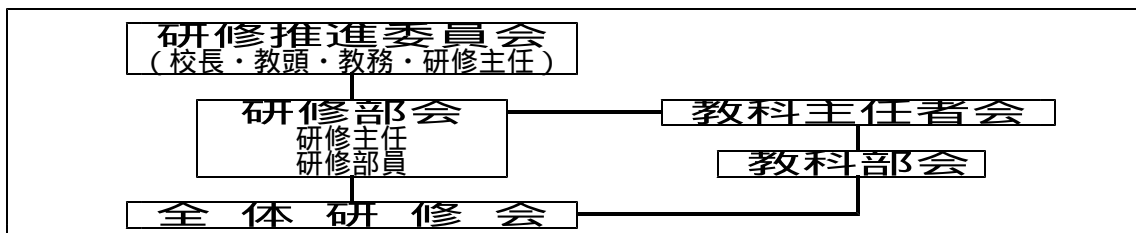
<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年・数学「習熟度別少人数指導」 生徒の理解や定着度に差が出やすい学年、教科であるため。 ・第3学年・英語「習熟度別少人数指導」 生徒の理解や定着度に差が出やすい学年、教科であるため。 ・第1学年・国語「少人数指導・T・T」 保健体育科「少人数指導」 基礎学力の定着を図るため。 ・全学年・上記以外のすべての教科 学力向上フロンティア研究を校内研修として全教科で取り組むという基本的な考え方があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「わかる喜び」と「できる実感」のある授業の創造</p> <p>研究の見通し 生徒の実態に応じた「教師の一工夫」に努めることにより、「生徒の学びのサイクル」が活性化し、「わかる喜び」や「できる実感」のある授業を創造することにつながるのではない。</p> <p>研究内容・方法 全教科で生徒の実態把握を行い、育っていることと課題とを明確にする。 全教科で生徒の実態に基づくアクションプランを作成する。 教科の実態や指導体制を踏まえ、個に応じた指導方法や指導形態を工夫する。 全教科で年間指導計画と観点別評価規準の見直しを行う。 県学力診断調査結果の分析を通して、学力を分析・把握し指導に生かす。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「わかる喜び」と「できる実感」のある授業の創造</p> <p>研究の見通し 生徒の実態に応じた「教師の一工夫」の継続を「教師の指導サイクル」とし、「生徒の学びのサイクル」との関連を持たせることにより、生徒の学習意欲が継続し、「わかる喜び」や「できる実感」のある授業を創造することにつながるのではない。</p> <p>研究内容・方法 全教科で生徒の実態把握に基づくアクションプランを作成する。 「教師の指導サイクル」と「生徒の学びのサイクル」とのつながりを図るために「学びの振り返りカード」(仮称)を全教科で作成する。 習熟度別少人数指導やT・T指導など、学習形態や習熟の程度に応じて指導を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 県学力調査結果の分析を通して、学力を分析・把握し指導と評価の一体化を目指す。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

12月に実施した生徒対象の少人数で行う授業についてのアンケート結果によれば、「普通の授業よりも少人数で行う授業の方がよい」と答えている生徒の割合は、1年国語 54%、2年数学普通コース 74.3%・基礎1コース 64.5%・基礎2コース 76.9%、3年英語 Challenge コース 68.2%・Master コース 73.7%・Basic コース 81.5%であった。また、同時期に実施した校内研修の学校評価には、「生徒の発言や表情で『わかった』ことを意識できた」「『よくわかる』と学習カードに書いた生徒が多くうれしかった」「できる限りノートをチェックした。をもらって喜ぶ姿は『できる実感』そのものだと思った」「『これはどうしたらできるようになるのか』という質問をする生徒が増えた」...といった教師の言葉があり、これまでの研修の成果が徐々に表れてきたことが感じられた。

2. 今後の課題

- 1 「教師の指導サイクル」と「生徒の学びのサイクル」とを関連づけること。「学びの振り返りカード」(仮称)をその糊代として位置づけ、学び続ける生徒の姿を目指したい。なお、「学びの振り返りカード」(仮称)には、本時の学習でわかった(できた)ことと、わからなかった(できなかった)ことを必ず記入するように指導すること。
- 2 毎時間の授業の課題を明確にし、生徒の振り返りが可能となるようにすること。
- 3 習熟度別少人数指導やT・T指導など、学習形態や習熟の程度に応じて指導を工夫すること。
- 4 数値のみでなく、生徒の意識調査も含めて学力向上を多面的にとらえること。

学力把握のための学校としての取組

- 1 国語・数学・英語の基礎・基本にかかわる小テストの実施
- 2 生徒の「わかる喜び」「できる実感」「学びの充実感」についての意識調査を2学期末に実施
- 3 県学力診断調査結果の分析(正答率・誤答例・考察等)1月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 「学力向上フロンティア研修会」の実施(平成15年8月4日)
講師：国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 清原洋一 先生
内容：周南中学校の研究構想および1学期の実践と研究協議及び指導講評
磐周地区の中学校すべてに通知し多くの参加を得た。
- 2 学力向上フロンティア研究発表会の計画(平成16年10月半ば)
2年次の10月に研究発表会を催し授業公開を行う予定。

周南中学校 E-mail shuunan02@ka.tnc.ne.jp

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他
	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無